

2023年10月20日

薬草教室 「地衣類と私たちの暮らし」

加藤裕一（公益社団法人 日本植物友の会 参与）

◆地衣類とは？

- ・藻類と共生した菌類の総称
- ・地衣類を構成する菌類を共生菌、藻類を共生藻と呼ぶ
- ・共生藻は光合成を行い、その産物を共生菌に提供
- ・共生菌は、共生藻に安定した生育環境を提供（水分やミネラルの提供、紫外線からの保護、など）

◆地衣類の形と暮らし

(形態)

- ・様々な外観を呈する
- ・便宜上、
「葉状地衣」
「樹状地衣」(樹枝状地衣とも)
「痂状地衣」(固着地衣とも)
などと区分



(生育場所)

- ・木の幹や枝
- ・岩や地面
- ・人工物にも



(生態系の中の地衣類)

- ・多くの動物の食料に、
巣材に、生活場所に
- ・表土の安定化や
土壌形成に関与

(図書)

『校庭のコケ 野外観察ハンドブック』全国農村教育協会
『街なかの地衣類ハンドブック』文一総合出版
『里山の地衣類ハンドブック』文一総合出版
『原色日本地衣植物図鑑』保育社 ※専門書

◆地衣類と人のかかわり

- ・薬用 …世界各地で民間薬として古くから利用(健胃、鎮咳、鎮静消炎、消化促進、…)／実際に抗菌作用や抗バクテリア作用が認められるものも
- ・食用 …世界各地で、食材に、お茶に、スパイスに／日本でも数種が食用に利用され、中でも「イワタケ」が有名
- ・染料 …欧州で非常に古くから盛ん／かつては工業利用もされた
- ・香水原料 …オークモスと呼ばれる種類が利用され、香水の主要成分の一つに
- ・手芸・装飾 …ジオラマの樹木に／テラリウムやフラワーアレンジメントの材料に／インテリア装飾やアート分野でも活用が進む



岸壁や大きな岩に着生するイワタケ

～ ～ ～ ～ ～

【人物】

日本の地衣類研究のパイオニア

- ・三好学
- ・安田篤
- ・佐藤正己
- ・朝比奈泰彦

地衣類学の巨星、朝比奈泰彦博士 (1881-1975)

幼少期より博物学に親しむ。東京大学では薬学(生薬学)を修める。スイス・ドイツに留学。植物成分を次々と解明し、日本の薬学を世界レベルに高めた。40代以降、地衣類の化学成分や分類の研究を驚異的なペースで進め、この分野でも世界をリード。若い頃から牧野富太郎と交流し、また、生涯にわたり牧野を支援した。

